

# 技能章・研究ノート

## 救急章

(スカウトライブラリー「救急法」野外活動における応急手当 2013 改訂による)

※技能章・研究ノート活用については、「技能章・研究ノートについて」を参照

日本ボーイスカウト愛媛県連盟

松山地区 第 団

氏名 \_\_\_\_\_

(1)ボーイスカウト救急法講習会を修了する。

<ボーイスカウト救急法講習会修了証のコピーを貼付>

尚：日本赤十字社救急法講習、救急員養成講習および消防署普通救命講習、上級救命講習では、ボーイスカウト救急法講習会の一部細目を履修することができる。これらの修了証のコピーを添付し、これらの講習会で履修できなかった細目については、別途考査を受け、合格すること。

☆愛媛県連盟では、独自に普通救命講習又は同等以上の講習を受講修了することが必須となっている。

コピー貼付欄


## ボーイスカウト救急法講習会細目

次の講習会の場合、○は細目の全てを履修したものとし、数字で示すものは該当番号の細目のみを履修と見なす。  
履修できなかった項目については別途審査をうけ、右の欄に認定をもらう。

	日本赤十字社		消防署		審査員の認定 日付 ・サイン
	救急 法 基礎 講習 N	救急 員 養成 講習 N	普通 救命 講習 S	上級 救命 講習 S	
<p>1. 救急法の基本</p> <p>次のことについて説明できる。</p> <p>(1)ボーイスカウト救急法の意義</p> <p>(2)傷病者の観察 <b>NSS</b>      (3)応急手当ての流れ <b>NSS</b></p>	(2) (3)	(2) (3)	(2) (3)	(2) (3)	
<p>2. 心肺蘇生法 <b>NSS</b></p> <p>(1)心肺蘇生法の手順を説明できる。</p> <p>(2)気道内異物除去の意義を説明し、正しく実演できる。</p> <p>(3)気道確保の意義を説明し、正しく実演できる。</p> <p>(4)人工呼吸法の意義を説明し、マウス・ツー・マウスによる呼気吹き込み法を正しく実演できる。</p> <p>(5)胸骨圧迫（心臓マッサージ）の意義を説明し、正しく実演できる。</p>	○	○	○	○	
<p>3. AED（自動体外式除細動器）</p> <p>(1)AEDの適応を理解し説明できる。 <b>NSS</b></p> <p>(2)AED使用の手順を説明できる。 <b>NSS</b></p> <p>(3)AEDが作動しない心臓の状態と、そのような状態の時 には何をしなければいけないかを説明できる。</p>	(1) (2)	(1) (2)	(1) (2)	(1) (2)	
<p>4. 止血法</p> <p>以下の止血法の説明ができ、出血の状態に適した止血法が それぞれ実演できる。</p> <p>(1)直接圧迫止血法 <b>NS</b>, (2)止血帯止血法 <b>S</b></p>	—	(1)	—	○	
<p>5. ショック <b>N</b></p> <p>ショック状態の徴候と、予防のための手当てを説明できる。</p>	—	○	—	—	
<p>6. 食中毒</p> <p>食中毒について説明し、その予防と手当ての方法を説明で きる。</p>	—	—	—	—	
<p>7. 一酸化炭素中毒 <b>N</b></p> <p>一酸化炭素中毒を説明し、その予防と回避する方法を実演 できる。</p>	—	○	—	—	

8. 熱中症 熱中症の種類とその予防，応急手当てを説明し，実演できる。	—	—	—	—	
9. 頭部外傷 <b>N</b> 頭部打撲時の症状と注意事項を説明できる。	—	○	—	—	
10. 骨折，捻挫 <b>NS</b> 次の部位の骨折，捻挫，打撲に対し身近な道具を用い，創意と工夫で正しい応急手当てができる。 (1)鎖骨 (2)上腕 (3)前腕 (4)大腿骨 (5)下腿 (6)人指し指 (7)手首・足首の捻挫 (8)四肢の打撲	—	○	—	○	
11. きず等 (1)きずの種類と応急手当てについての一般的注意事項を説明できる。 (2)日常遭遇しやすい次のような場合の応急手当てができる。 ア 鼻血 <b>N</b> イ 目のちり <b>N</b> ウ やけど <b>NS</b> エ 指の切りきず <b>N</b> オ 立ちくらみ <b>N</b> カ 腹痛	—	(2) ア～オ	—	(2) ウ	
12. 動・植物による被害 以下の生物による被害の予防と応急手当てを説明できる。 (1)スズメバチ刺傷 (2)毒ヘビ咬傷 <b>N</b> (3)イヌ咬傷 <b>N</b> (4)ムカデ咬傷 (5)ウルシ接触性皮膚炎 <b>N</b>	—	(2) (3) (5)	—	—	
13. 搬送法 <b>NS</b> 傷病者を搬送する方法を一人法で3通り，二人法で2通り，三人法で1通りが実演できる。また，急造担架を作り，担架で運ぶ時の注意を説明し，その担架で実際に運ぶことができる。	—	○	—	○	
14. 救急要請 <b>NNSS</b> 電話で救急車を要請する時の必要事項を説明し，通報を実演する。	○	○	○	○	

(2)隊の救急箱を整備し（未整備品，充足・不足物品のリストアップを含む）そのチェックリストを提出する。 救 P224、ス P292～293

救急箱を整備するときの注意事項

--

整備前の救急箱収納物

品目	個数	品目	個数

未整備品，充足・不足物品など

品目	個数	品目	個数

整備後の救急箱収納物

品目	個数	品目	個数

(3) 県連盟，地区単位で設置される救護所の奉仕や隊活動，キャンプでの救護係を通算 5 日以上担当し，その報告書を提出する。 救 P226～227

期間	日数	名称・場所	参加人数	応急手当の実践内容
年 月 日 ～ 年 月 日				
年 月 日 ～ 年 月 日				
年 月 日 ～ 年 月 日				
年 月 日 ～ 年 月 日				
年 月 日 ～ 年 月 日				

上記の通り担当したことを証明する 隊長サイン  
 上記 応急手当機会がなかった場合、

日常生活で遭遇した、傷病について、行った手当てなどの経過をまとめる

考查時参考レポート

1 - (1) : ボーイスカウト救急法の意義を述べよ (救 P2~10、ス P290~291)

3 - (3) : AEDが作動しない心臓の状態と、そのような状態の時には何をしなければいけないかを述べよ (救 P34~42)

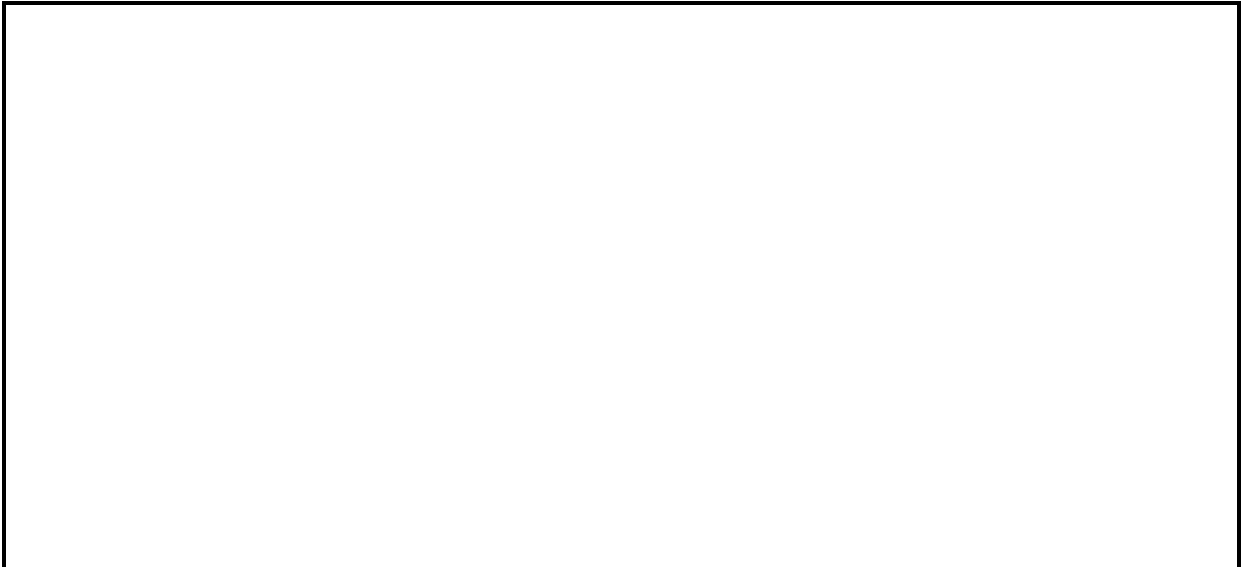
4 : 以下の止血法を述べよ

(1) 直接圧迫止血法 **NS**      (2) 止血帯止血法 **S**      (救 P80~84、ス P298~299)

5 : ショック状態の徴候と、予防のための手当てを述べよ (救 P P52~55、ス P307) **N**



6 : 食中毒について説明し、その予防と手当ての方法を述べよ (救 P160~178)



7 : 一酸化炭素中毒を説明し、その予防と回避する方法を述べよ。(救 P206~208) **N**





8 : 熱中症の種類とその予防、応急手当を説明し、実演せよ (救 P58～67, ス P308～309)



9 : 頭部打撲時の症状と注意事項を述べよ。(救 P98～99、104～105、126、196 参考) **N**



10 次の部位の骨折、捻挫、打撲に対し応急手当を行うこと

(救 P98~105、112~132、ス P300~305) NS

症状	ポイント	実技確認
(1) 鎖骨		
(2) 上腕		
(3) 前腕		
(4) 大腿骨		
(5) 下腿		
(6) 人差し指		
(7) 手首・足首の捻挫		
(8) 四肢の打撲		

11 (1): きの種類と応急手当に付き一般的注意事項を述べよ

(救 P86~96、112~127、ス P310~311)

1 1 (2): 日常遭遇しやすい次のような場合の応急手当を述べよ

症状	応急手当	参考
ア 鼻血 N		(救 P108~109)
イ 目のちり N		(救 P106~108)
ウ やけど NS		(救 P154~158、 ス P306)
エ 指の切りきず N		(救 P93~94、 ス P310)
オ 立ちくらみ N		(救 P202~203)
カ 腹痛		(救 P180~186)

1 2 以下の生物による被害の予防と応急手当てを説明せよ

症状	予防と応急手当て	参考
1) スズメバチに 刺された		(救 P143~146 ス P313)
2) 毒へびに 咬まれた N		(救 P139~143 ス P312)
3) イヌに 咬まれた N		(救 P134~135)
4) ムカデに 咬まれた		(救 P147)
5) ウルシに かぶれた N		(救 P147~148 ス P313)

13 (1) 傷病者を搬送する方法を一人法で3通り、二人法で2通り、三人法で1通り図示せよ (参考 救 P210~213、ス P314~315) NS

搬送法	図
一人法	
二人法	
三人法	

#### 1 4 救急要請

電話で救急車を要請する時の必要事項を説明し、通報を実演する。

#### 119 番通報等、救命救急

救急法 P14～49、216～220、222～223、スカウトハンドブック P290～299

1 1 9 番通報の流れ（やりとり）	
消防本部	私
どんなとき、119番をするのか	

救急箱 備品整備表

- 活動に応じた備品があるか確認  
使用期限の確認や取扱説明書の確認  
分かり易く、衛生的に整備されているか確認

整備前の救急箱収納物

品目	個数	品目	個数

未整備品, 充足・不足物品など

品目	個数	品目	個数

整備後の救急箱収納物

品目	個数	品目	個数

平成 年 月 日 整備

整備者 \_\_\_\_\_

救護報告書

平成 年 月 日 活動場所： 活動内容：

報告氏名： 所属： 県連盟 地区（ ） 団 スカウト

傷病者 氏名	年齢：	性別：	所属
発生日時：平成 年 月 日 午前・午後 時 分頃			
発生状況及び内容			
・どのような状況で			
・何をしていた			
・どのような事象が生じたか			
考えられる原因			
傷病者の状況について			
・訴えや症状			
・ケガ等の状況			
行った応急手当			
応急手当後の転帰 活動に復帰 ・ 病院へ搬送 ・ 帰宅			